

スーパースーパーグローバル大学等事業  
「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」

事業報告書



東 北 大 学

# 目 次

はじめに .....	1
<b>I 事業の概要</b>	
1. 目的 .....	2
2. 概念図 .....	2
3. 実施体制 .....	3
<b>II 事業の取組内容と成果</b>	
1. 教育課程の国際通用性向上 .....	4
(1) 国際通用性の高い教育システムの開発	
(2) カリキュラムの国際化と基礎・展開ゼミの拡充および課題解決型授業の実施	
2. グローバル人材として求められる能力の育成 .....	5
(1) 東北大学グローバルリーダー育成プログラム (TGL プログラム)	
3. 日本人学生の留学を促進するための環境整備 .....	9
(1) 留学阻害要因の特定と対策	
(2) 留学前から帰国後にわたるサポート体制	
4. 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの取組 .....	12
(1) 効果的な語学教育及び教育体制	
(2) 東北大学イングリッシュアカデミー	
5. 教員のグローバル教育力の向上および他大学への貢献 .....	13
(1) FD、国際教育関連学会等を活用した教員の資質向上	
(2) 他大学へのグッドプラクティス普及	
<b>III 参考資料</b>	
1. 各種データ集 .....	15
2. これまで開催したセミナー、シンポジウム等 .....	17
3. 中間評価結果 .....	18
4. 平成29 (2017) 年度フォローアップ資料 .....	19

スーパーグローバル大学等事業

「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」事業報告書

発行日：2017年9月

発行：東北大学 高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター

東北大学 教育・学生支援部 留学生課

# はじめに

この報告書は、「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（Go Global Japan）」（タイプA・全学推進型）における平成28（2016）年度までの本事業の取組内容と、そこで得られた成果等を取りまとめたものです。

本学は、開学以来「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」を理念として、日本と世界の学術研究、教育の発展に貢献してきました。平成21（2009）年度に採択された「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（グローバル30）」では、英語による学位コースやダブルディグリー等の国際共同教育の実施等により、多くの留学生を積極的に受け入れてきました。力のあるものはそのバックグラウンドにかかわらず受け入れるという門戸開放の理念は今でも受け継がれています。

グローバル30に続き、平成24（2012）年度には「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（Go Global Japan）」（タイプA・全学推進型）に採択され、日本人学生がグローバル社会で活躍できる教育プログラムを企画・展開してきました。

本事業の核をなす「東北大学グローバルリーダー育成プログラム（TGLプログラム）」は、東北大学の長である柔軟で強固な「専門基礎力」に加え、その専門能力を十分に発揮し、産学官のさまざまな分野でグローバルに活躍するために必須となる「グローバル人材としての能力」を身につけるための実践プログラムとして開発され、その受講者数ならびに修了者数は年々増加しています。また、本取組みの一環として実施している短期海外研修プログラムであるStudy Abroad Program（SAP）の参加者数も平成24（2012）年度の121名から平成28（2016）年度は330名まで増加していること、海外留学者数の比率が年々増加していること等、本事業の様々な取組によって本学学生の目は着実に海外に向き始めていることを実感しているところです。

本事業は、平成26（2014）年度に本学が採択されたスーパーグローバル大学創成支援（タイプA・トップ型）に事業が引き継がれるとともに、第3期中期目標・中期計画でも本事業の取組を連動させながら、更なる高い目標のもとで今後も継続・強化していくこととなっています。

このたび取りまとめたこの報告書が、学内外の諸関係者に積極的に活用されることにより、大学教育のグローバル化の加速とグローバル社会で活躍できる指導的人材を養成する基盤強化に向けた有意義な議論の一助となることを期待しています。

2017年9月

理事（教育・学生支援・教育国際交流担当）

花 輪 公 雄

# I 事業の概要

## 1. 目的

文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（Go Global Japan）」（旧グローバル人材育成支援事業）（以下「GGJ」という。）は、経済社会の発展に資することを目的に、グローバルな舞台に積極的に挑戦し世界に飛躍できる人材の育成を図るため、学生のグローバル対応力を徹底的に強化し推進する組織的な教育体制整備の支援を行うことを目的としている事業であり、本学は平成24（2012）年度にタイプA（全学推進型）に採択された。

本学が学部教育において担うべき「グローバル人材」として必要な能力としては、次のとおり目標を掲げている。

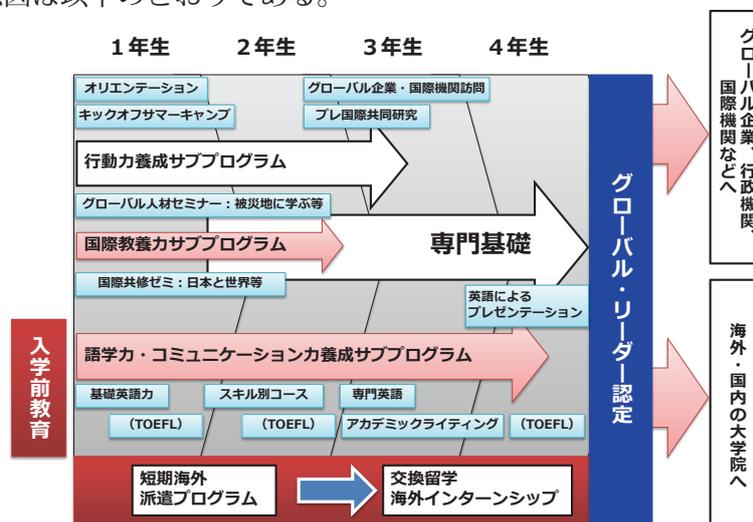
- ①国際社会において、指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、基礎能力を備えていること。
- ②専門分野に関する知識及び学問分野全体への興味関心と幅広い知識に基づく複眼的視野を有していること。
- ③教養ある社会人としての素養を備え、専門分野特有の技能を生かして社会に貢献できること。

本事業では本学の強みを生かした特色あるプログラムを新設し、国内学生の海外留学の促進を組み合わせることで、大学教育の国際化を加速し本学の教育理念及び社会のニーズにかなう国際社会で活躍できる指導的人材を養成する基盤強化を目的としている。

具体的には、学部教育において「東北大学グローバルリーダー育成プログラム」を策定・実施し、専門基礎力、語学力、コミュニケーション力、国際教養力、行動力を養うプログラムと、短期海外派遣留学、交換留学、インターンシップ等の海外研鑽を有機的に組み合わせた教育を行うことで、世界に飛翔する人材、人類の文明の進歩と文化の発展に貢献する人材の育成を加速させる取組となっている。

## 2. 概念図

本事業推進のための具体的なプログラムとして策定した「東北大学グローバルリーダー育成プログラム」の概念図は以下のとおりである。



### 3. 実施体制

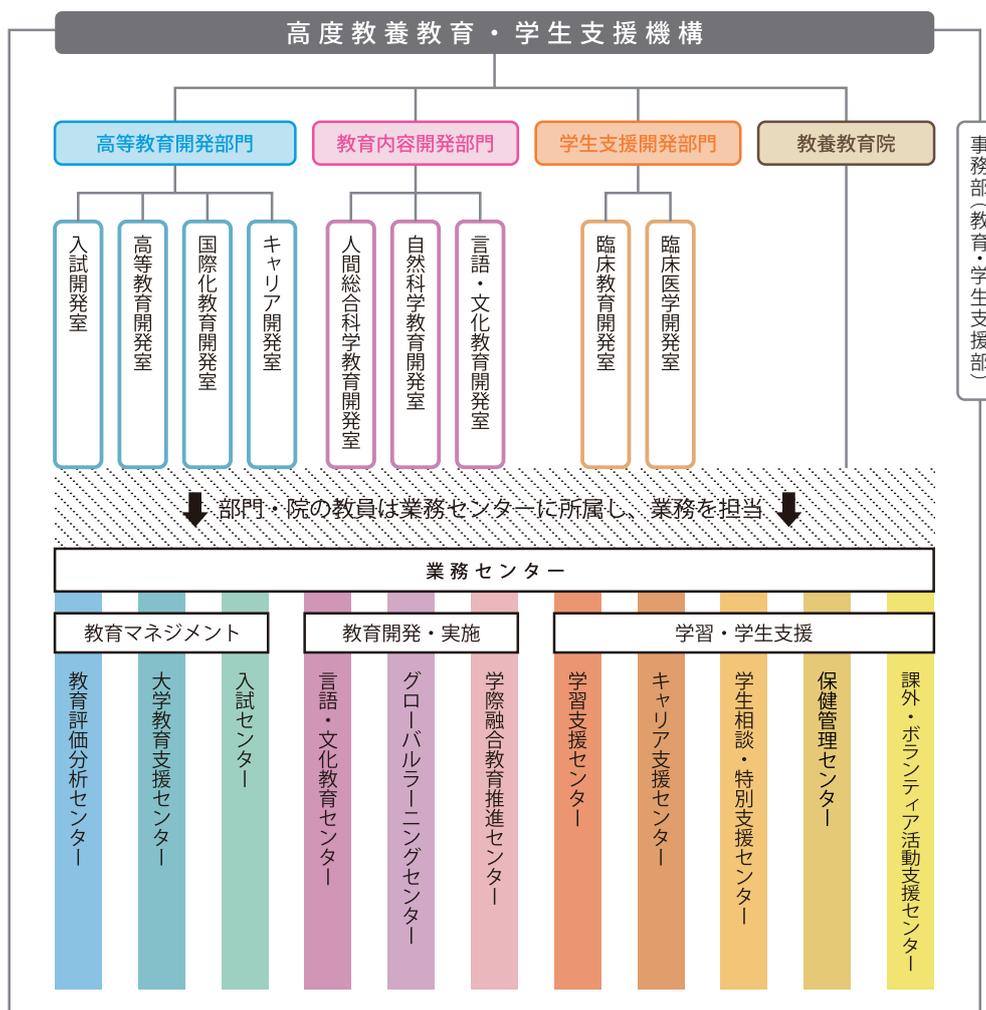
#### ーグローバルラーニングセンター、高度教養教育・学生支援機構の設置ー

本学は、本構想の推進に当たり平成24（2012）年度に「グローバルラーニングセンター（GLC）」を新たに設置し、他部局・他部署との連携のもと本事業推進の中心的な役割を果たすとともに、事務体制については、教育・学生支援部留学生課がGLC及び本事業の実施を全面的に支援する体制を敷いてきた。

本事業の実施に当たっては、本事業実施責任者、GLC教員、各学部の教務委員長等からなる「グローバル人材育成推進事業実施委員会」を置き、定期的に会議を開催し、東北大学グローバルリーダー育成プログラム（TGLプログラム）の内容やグローバルリーダー認定など重要事項について審議するとともに積極的に報告を行い、各学部との情報共有を含む連携を深めてきた。

平成26（2014）年4月、本学は高度教養教育、学生支援、高等教育国際化の推進等に関する調査研究、開発、企画、提言、実施を一体的に推進するため、「東北大学高度教養教育・学生支援機構」を設置した。GLCは、本事業で連携してきた国際交流センター、国際教育院、高等教育開発推進センター等の既存組織とともに機構に統合され、入試、全学教育、専門教育、大学院教育、学生支援、キャリア支援も含め本事業で提供する教育プログラムの恒常化について議論できる体制を整えた。

高度教養教育・学生支援機構体制図



## Ⅱ 事業の取組内容と成果

### 1. 教育課程の国際通用性向上

#### (1) 国際通用性の高い教育システムの開発

世界に開かれた研究中心大学として、優秀な留学生を招聘し、国内学生を海外に送り出すための教育課程や学事暦の抜本的な改革は、近年における本学の課題であった。本事業により、欧米はもとよりアジアの強豪大学では標準となりつつある科目ナンバリング、GPA制度、クォーター制などを本格的に導入し、本学の国際通用性を飛躍的に高めることが出来た。以下にその成果を述べる。

○ 科目ナンバリング：平成26年度に検討ワーキング・グループを設置し、学内統一的な運用を踏まえた検討を行い、同年11月に『東北大学「科目ナンバリング」実施マニュアル』を制定した。これをもとに平成28年度末までに、全10学部・全16研究科等において科目の付番を完了した。同時に、カリキュラムマップの作成・導入を進め、平成28年度に8学部・11研究科でガイダンスや履修手引の作成の実施をもって履修モデルを提示した。

○ GPA制度：海外ではスタンダードになりつつあるGPA制度を平成28年4月入学の学部学生から導入した。これにより、成績基準の統一化を進め、派遣・受入双方向の学生モビリティの更なる活性化を図る体制を整備した。

○ クォーター制：全学組織の学務審議会教務委員会にて数年かけて議論・検討を繰り返し、平成28年度より段階的に導入した。セメスター制では学事暦が異なるために、海外の大学で開講されているサマープログラム等への参加が制限されていたが、これにより短期海外研修の参加者増が期待される。今後は、クォーター制度導入の効果検証を継続的に実施し、学生および教学上のメリットが最大化される制度の活用および方法を精査する予定である。

#### (2) カリキュラムの国際化と基礎・展開ゼミの拡充および課題解決型授業の実施

本学の強みは各部局にて質の高い学際的な研究活動が展開されていることである。これらの学内資源を有効活用し、高校卒業後間もない学部初年次学生に対し、学問の最先端に触れながら視野の拡大、将来のキャリアパスへの意識付けを早期に行うことは、学習における目的意識・意欲の向上に有用であるだけでなく、近年その重要性が注目されつつある高大連携の観点からも有益である。このような視点から、本学では最先端の研究成果や教育実践を反映した「学びの転換」導入教育として「基礎ゼミ」やその発展形の「展開ゼミ」を開講している。

本事業において、国際的な視点で事象をとらえる学習機会を担保した「基礎ゼミ」を増設し、さらに課題解決型学習を取り入れた「展開ゼミ」を多数開講するなど、カリキュラム改革を推進することが出来た。勉学に対する強い意欲と明確な将来ビジョンを持たせるとともに、高校までの受動的学習から大学における能動的学習へと導きながら、コミュニケーション能力、批判的思考力、論理的思考力、問題解決力等の育成を通して、自主的な学習姿勢を身に付けさせる。この「展開ゼミ」の多くを占めるのが、グローバルマインドの醸成を目的とした「国際教育関連科目」である。本事業にて、科目数を平成25年度の30科目から平成28年度の62科目に倍増させるなど、カリキュラムの国際化を積極的に推進することが出来た。

このように低年次にグローバルマインドの醸成と異文化や自文化に対する理解促進を図ることで、専門教育課程やその後のキャリアパスにおける選択肢を増やし、国際社会で指導的人材として活躍することに対する肯定的なイメージを持たせる基盤形成に努めた。本事業の大きな成果ともいえるこれらの国際関連科目をあらたな科目群にまとめ、カリキュラムをより体系的に発展させるための準備を進めているが、将来的には各学部履修要件の見直しを働きかけ、「国際教育関連科目」の必修化を目指したい。事業として開始したグローバル人材育成を本学のカリキュラムに取り込むことでメインストリーム化を完結させる。

### (3) 外国人留学生と国内学生が共に学ぶ国際共修環境

「展開ゼミ」として新設した科目のうち、とりわけ学生に高い評価を得たのが留学生と日本人学生が共に学ぶ課題解決型の「国際共修ゼミ」である。アクティブラーニングを取り入れた国際・異文化理解授業、国際展開する企業・機関との連携によるグローバルキャリアセミナー等、学生が言語や文化を越えて学び合う「国際共修ゼミ」を3年間で18科目から34科目に増設した。本学は、全国でもトップクラスの開講数を誇り、国際共修のロールモデル校として評価されつつある。カリキュラムの国際化や教授法の開発においては実践のみならず、それを支える研究も推進し、教育・研究両輪での改革を実行している。



【国際共修ゼミの様子】

## 2. グローバル人材として求められる能力の育成

### (1) 東北大学グローバルリーダー育成プログラム (TGLプログラム)

平成25年度から、高度な専門基礎力を基盤とし、「語学・コミュニケーション力」、「国際教養力」、「行動力」を養う正課内外の授業や講座・セミナー等からなるサブプログラムと、「海外研鑽」サブプログラムを有機的に組み合わせた学部学生向けの東北大学グローバルリーダー育成プログラム (TGLプログラム) を実施している。

TGLプログラムは登録制・ポイント制プログラムとして実施し、TGLプログラムに登録した学生 (以下、「TGL学生」という。) は、TGLプログラムが指定する全学教育科目や専門教育科目 (TGL指定科目) の履修や、課外授業等への参加等により、グローバル人材としての達成度の指標の一つとなるTGLポイントを取得しながら研鑽を積む。TGLプログラムが定める一定のポイントや語学要件等を満たしたものは、本事業の企画・運営を所掌するグローバル人材育成推進事業実施委

員会の議を経て、TGLプログラム修了者、グローバルリーダーとして認定している。グローバルリーダーには総長より認定証を授与し、その成果を称えとともに、国際社会の発展に資する人材となるよう更なる研鑽に励むよう奨励している。

### ○サブプログラム

TGLプログラムでは、グローバル人材に必要な素養・能力を3つの分野(サブプログラム)から捉え、それぞれのサブプログラムにおいて、その特性に合わせた正課内外の授業や講座・セミナー、国際機関におけるインターンシップ、被災地でのボランティア活動等を有機的に組み合わせることにより、TGL学生のグローバル人材としての素養・能力を養成している。また、海外研鑽を組み合わせることにより、TGLプログラムを通じ習得した素養・能力を実践する機会を提供しグローバル人材としての諸能力を総合的に高めている。

#### (1) 語学・コミュニケーション力養成サブプログラム

世界共通語である英語の4技能(読む力、書く力、聞く力、話す力)をバランスよく伸ばし、他者を理解し、自らの考えやものごとを論理的に説明する能力を養う。

#### (2) 国際教養力養成サブプログラム

自国の文化・歴史を理解するとともに、異文化を理解し寛容の精神を育み、世界における自らのアイデンティティを養う。

#### (3) 行動力養成サブプログラム

行動力の原点となる課題解決能力、判断力、積極性、実行力を養い、主体的な学びを醸成する。

#### (4) 海外研鑽(けんさん)サブプログラム

海外での学習・生活を通じてグローバル人材としての諸能力を総合的に高める。



【TGLプログラムの概念図】

## ○達成目標別コース

TGLプログラムは、「グローバルリーダー認定コース」と「TGLプログラム修了コース」の2つのコースにより構成される。それぞれのコースの特長に合わせ、グローバル人材としての素養・能力を身に着ける。

### (1) グローバルリーダー認定コース

グローバル社会で活躍するための広い視野を持ち、語学力・コミュニケーション力、国際教養力、自ら情報収集・分析し目標を実現できる行動力の高い水準での習得を目指す。

### (2) TGLプログラム修了コース

グローバル社会を生き抜くための広い視野を持ち、語学力・コミュニケーション力、国際教養力、行動力の基礎の習得を目指す。

## ○学習成果指標に基づく指導とEポートフォリオ

TGLプログラムでは、本学の教育理念と人材育成目標に沿って独自に開発した学習成果指標に基づき、学生がそれぞれ伸ばしたい能力やキャリアパスを見据えた学習目標を設定する。アカデミックアドバイザーの支援を受けながら、本事業で導入したEポートフォリオ「TGLフォリオ」を活用し、目標設定と学習進捗状況の振り返りを継続的に行うアウトカムベースの学習を取り入れている。この「TGLフォリオ」は教育的なツール以外にも、学生のグローバル人材としての成長をモニタリングすることでTGLプログラムの効果も検証できる評価機能も併せ持っている。効果的な教育・指導に資するように入念に設計し、定期的に機能の見直しを図っている。プログラムおよび学生の成熟度に合わせて成果指標を柔軟に改善し、学生の目標達成度の推移及びプログラムの効果を定期的、継続的に測定・分析し、プログラムの改善に繋げるサイクルを体系化している。

## ○学生の多様なニーズに対応する学習支援

より多くの学生のニーズに対応するために、上記で述べた2つの達成目標別コースを設け、それぞれの関心やキャリアパスにあわせた人材育成に努めている。平成28年度より、グローバルリーダー認定コースに必修科目「グローバルゼミ」（全学教育科目）を設置し、少人数制のアクティブラーニングを取り入れた参加型の授業を通して、グローバル社会で活躍するための素養を養成すると共に、グローバルリーダーとしての意識改革・動機付けを強化している。全履修者にアカデミックアドバイザーを配置し、プログラム修了時まで丁寧に指導・支援する体制を構築することで確実にグローバルリーダーを輩出する仕組みを整えた。毎学期、定員60名（20人×3クラス）に対して数倍以上の応募があるが、履修者の大半がグローバルゼミ修了後もグローバルリーダー認定に向け研鑽を重ねている。



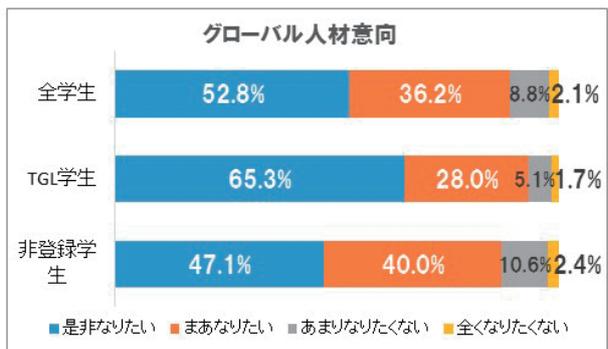
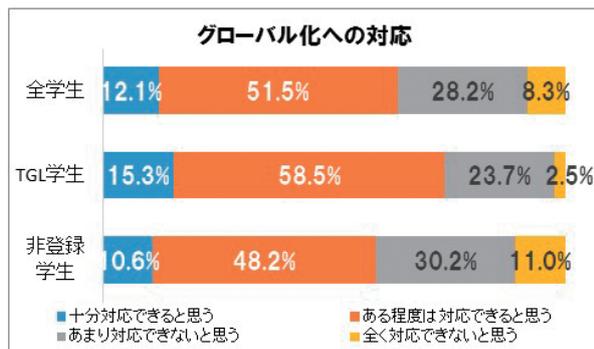
【TGLプログラムの認定制度】

### ○TGLプログラム参加者のグローバルマインドの醸成

TGLプログラムではグローバル人材としてのスキル・能力を養成するだけでなく、学生にグローバル人材としての「マインドセット」を植え付けることを主な目的として平成26年度から全学教育科目の正規授業としてグローバルキャリアセミナーを実施している。(平成25年度は課外授業として実施。) グローバルキャリアセミナーでは、授業毎にグローバルに活躍する社会人をゲストスピーカーとして招聘し、グローバル社会での経験や心構え等の講演の他、参加学生によるグループディスカッション等が行われる。

同セミナーは全学部、全学年を対象としているため、専門や学年の異なる学生が集い、活発に質問・議論を展開する実学の間として学生に高く評価されている。グローバルリーダー認定証授与式の代表スピーチにおいても、国際社会で活躍する講演者の姿に啓発されグローバルリーダーを志したと振り返る学生は多い。同セミナーを通じたロールモデルとの接触がグローバル人材育成に有用であることが見て取れる。

また、平成25・26年度に全学部生を対象に実施したグローバル人材に関する意識調査では、国際社会で活躍することへの意向・準備状態において、TGLプログラム登録者が非登録者を全ての項目において上回る結果となり、TGLプログラムが学生のグローバルマインドの醸成に一定の役割を果たし、かつ本学のグローバル人材育成を牽引するプログラムへと発展しつつあることが明示された。



【学生のグローバルキャリア意識に関する調査結果（平成26年度）より】



**Global Career Seminar** TGL

**10/11 (TUE) 18:00~** ★ in English ★

Lecture Room 5 (Economics), Lecture Rooms, 川内南キャンパス 中講義棟 2階 第1講義室(経済学部)

**FAST RETAILING** **UNIQLO**

**SASAKI Aiko**  
Global Recruiting, Human Resources  
**佐々木 愛子 氏**

For TGL students  
全日英学生対象

www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/seminar/

**Global Career Seminar** [特別編] For All Students

**Presentation Zen: A 21st Century Approach to Presentations**  
In English

**11/14 (mon) 18:00 ~ 19:30**

Lecture Hall 2 [Law] (Room 201), Multidisciplinary Research Building, Kawachi Minami Campus, 川内南キャンパス 文科系総合講義棟 2階 法学部第2講義室(201)

**Garr Reynolds**

www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/seminar/12054/

**グローバルキャリアセミナー** [特別編]

BBC初日本人レポーター  
**大井 真理子 氏 講演会**

**11/4 (金) 18:00~19:30**

対象: 全学生(学部生・大学院生)  
会場: 川内南キャンパス 文科系総合講義棟2階 法学部第2講義室(201)

**Live the Story**

www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/seminar/11512/

**グローバルキャリアセミナー** [特別編]

**ITによる新しいビジネス、生活スタイルの創造**

**6/2 (木) 18:00~19:30**

川内南キャンパス 文科系総合講義棟 2階 法学部第2講義室(201)

**サムスン電子ジャパン株式会社**  
代表取締役 最高経営責任者  
**堤 浩幸 氏**

http://www.insc.tohoku.ac.jp/japanese/

【グローバルキャリアセミナー】

○TGLプログラムの発展と今後の展望

学部1、2年生を中心に2,562名(平成28年度末)の学部学生が登録しており、その数は年々増加している(平成26年度:1,322名→平成28年度:2,562名)。全学部生の約4人に1人が参加するプログラムへと成長しており、また、TGL指定科目もプログラム開始時の200科目(平成25年度)から392科目(平成28年度)、指定課外授業・海外留学プログラム・課外活動は平成28年度には28に拡大するなどTGLプログラムは着実に成長し、学内に浸透している。今後は、TGLプログラムのさらなるメインストリーム化を図り、将来的にはグローバル分野の副専攻の設置につなげたい。

3. 日本人学生の留学を促進するための環境整備

(1) 留学阻害要因の特定と対策

海外留学者数の減少は日本の高等教育機関共通の課題であり、本事業にて集中的な改善が求められていた。本学でも派遣留学者数が伸び悩んでいたため、まずは留学の阻害要因を調査し、それらを克服するための施策と留学支援体制の整備に着手した。「東北大学学生生活調査」で特定された留学の阻害要因、①経済困難、②語学力不足、③外国での生活に対する不安、④卒業期の遅れ、に対応するプログラムとして、経済負担が少なく休業期間中に集中して語学力を学び、異文化を体験する以下の「プレ交換留学プログラム」を拡充した。

## ○スタディアブロードプログラム (SAP)

学術交流協定校等との共同開発で、2～5週間の語学・文化学習に主眼を置いた、テーマ別の短期海外研修プログラムを飛躍的に拡大した。5年間でSAPをプログラム数、派遣者数ともに5倍以上の11プログラム、330名（平成28年度）に増やし、事前や事後研修等の学習活動を拡充し、単位化を図った。



【スタディアブロードプログラム (SAP)】

## ○協定校主催の短期プログラム

学術間交流協定が主催するサマープログラム等の短期海外研修を本学の単位（全学教育科目：「海外フィールドワーク」2単位）に認定することで、学生がそれぞれの関心や習熟度に合わせて海外研鑽に励める制度を整備した。単に学生を送り出すだけでなく、危機管理を含めた事前研修、帰国後の報告等を課し、学生の学びを最大化するための指導を実施し教育の質の維持・向上に努めている。

## ○その他の短期研修プログラムの開発

学生の新たなニーズに対応するために、平成28年度から教員引率型海外体験プログラム（ファカルティレッドプログラム）や理系学生向け研究活動を取り入れたプログラムなど、新規プログラムを精力的に開発し短期海外研修の多様化を図っている。

## ○入学前海外短期研修プログラム

平成25年度より、AO入試Ⅱ期・科学オリンピック入試・国際バカロレア入試等により一足早く本学への入学が決まった高校生を対象に「入学前海外研修～High School Bridging Program～」を継続して実施している。本プログラムは国立大学発の取組として高く評価され、平成28年度よりプログラム数および派遣者数を拡大した。他大学からも問い合わせが相次ぎ、グッドプラクティスの普及という側面でも成果の大きい取組となっている。



### 【入学前海外研修～High School Bridging Program～】

これらの短期研修を入学前および低学年で実施することにより、半年から一年の交換留学等を行う学生数が増加した。平成28年度は交換留学応募者の約半数が短期海外研修経験者であり、その多くが、短期研修を通して異文化への理解が深まり留学先の学習や生活に対する不安が解消されたと証言している。派遣留学プログラム及び派遣留学者数の増加に伴い、それぞれのプログラムや海外留学の効果の評価方法の策定及び評価結果に基づく大学教育との効果的な融合の検討を更に推進する予定である。

## (2) 留学前から帰国後にわたるサポート体制

### ○留学支援の強化

グローバルラーニングセンター教員および留学生課職員が、留学前、留学中、留学後それぞれのステージにおいて学生に様々な教育指導・支援を行っている。留学前のアドバイジングや危機管理などの事前研修のみならず、留学中や留学後にも相談に応じ、グローバル・キャリア支援を含む包括的なサポートを実施している。学生との距離を縮め、よりきめ細やかなサポートを提供するために、平成28年より地域担当アドバイザーを置き、留学準備から帰国報告会まで一連の流れの中で支援が実施できるよう体制を整備した。TGLプログラムで開発した学習成果指標を留学者向けに応用し、留学の目的の明確化と成果を意識した留学先での学習・生活の充実化を促している。また、危機管理セミナーを含む充実した事前研修および成果報告会を実施し、研修効果の最大化を図るとともに、研修実施機関である協定校の担当者と密に連絡を取り合い、プログラム改善や支援体制の見直しを継続して行っている。

### ○学生の相互支援

平成25年度に留学経験者が留学予定者・希望者を支援する「グローバル・キャンパス・サポーター制度」を導入し、学生主体の留学説明会やネットワーキング交流会の企画、ソーシャルメディアを利用した情報交換、個別相談、各種セミナーの企画を通して、学生間の相互支援を活性化させた。

### ○ラーニングアグリーメント

留学阻害要因の一つでもある「卒業期の遅れ」に対する不安を解消するために、留学先で取得した単位を円滑に互換できるようラーニングアグリーメント導入のための整備を進めた。全学及び各部局での単位認定・互換可能科目の状況について情報を集約し、検討を重ね、同アグリーメントの導入に向けた最終調整を行った。学生は留学先で履修する科目の互換の可能性につき留学

前に情報を得ることで、留学中および帰国後の学習計画が立てられる。ラーニングアグリーメントの導入により、今後、留学者数が着実に伸びることが期待される。

#### ○財政支援によるプログラムと派遣留学者の拡大

派遣留学の促進を図るために、日本学生支援機構の奨学制度に積極的に応募し、多数が採択に至っている。また本学独自の奨学金制度である「東北大学基金グローバル萩海外留学奨励賞」を創設し、総長が授賞式で賞状を授与するなど、大学を挙げて経済支援に取り組んでいる。



【グローバル萩海外留学奨励賞授賞式】

#### ○留学制度の「見える化」

GLCのホームページを大幅にリニューアルし、ウェブ、SNS、オープンキャンパス、入試説明会等を通じて、本学の教育情報を積極的に発信し学生が留学に関する情報を入手しやすい環境整備を行った。海外に向けても英語ホームページによる情報発信を行い、海外協定校訪問時及び国際教育関連の国際学会（NAFSA、EAIE等）出席時等に派遣留学プログラムの共同開発や支援ネットワークの構築に努めている。

## 4. 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの取組

### （1）効果的な語学教育及び教育体制

2年次以降の英語教育を充実させ、外国人講師による実践英語授業「Practical English Skills」や、外部機関と連携し、英語によるプレゼンテーション等を集中的に学ぶ「プラクティカルイングリッシュコース」を開講している。例年、学部大学院生約50名以上が受講している。これ以外にも、英語でコンテンツを学習する機会を創出するために、国際学士コースや交換留学プログラムで開講している英語による全学教育科目の共修化を推進し、国内学生が履修できる環境を整備した。英語による授業の質の維持・向上を狙った教員向けFDも継続的に実施している。

### （2）東北大学イングリッシュアカデミー

平成27年6月に、東北大学イングリッシュアカデミー（TEA）を設置し、中核的取組として集中的に課外英語教育プログラムを実施し、学生の実践的英語力向上、とりわけTOEFLテスト等の成績の向上と留学先で必要な「Study Skills」の修得を図った。以下がその概要である。

#### ○学内語学力テストの実施

入学直後より、語学学習へのモチベーションを高め、継続して学習に勤しむ環境の整備を進めている。例えば学内でTOEFL-ITP®テストを年10回程度実施しており、そのうち数回は大学が

受験費用を負担している。また、平成27年度からは、仙台で受講機会が限られるTOEFL-iBT®テストの学内実施に踏み切った。年2～3回、本学の学生のみを対象とした試験を実施している。学生のTOEFL-ITP®テストのスコアはデータとして蓄積、定期的に分析し、英語教育の効果検証や改善に反映させている。

### ○実践英語講座 (TEA's English) の実施

世界的な語学学校ELSを誘致し、留学の際に必要な英語4技能の向上を図るカリキュラムで、書く力、話す力といったアウトプット力の向上に焦点をあて、学期中、夏季・春季休業期間中にそれぞれ講座を開講している。学期中プログラムは週2回、合計週28クラス、休業期間中は合計4～6クラスで学生が正課の学業と両立しやすい柔軟なスケジュールで対応した。平成27年度は学期中プログラム380名、休業期間中プログラム15名、平成28年度は学期中306名、休業期間中126名が受講するなどTEAの学内知名度の向上とともに受講者は急増している。毎学期末のELSの報告では受講生の4技能力の飛躍的な伸長が確認されている。

### ○語学アドバイジング

英語学習アドバイジングを実施し、ネイティブの英語講師が学習指導や、英文書類の作成補助、添削など、きめ細やかな学習指導・支援を実施している。受講者以外の相談にも臨機応変に対応し、学生からの評価も高い。海外の大学院進学に必要な研究計画書の作成指導や外資系企業でのインターンシップ・就職に向けた準備支援等での活用など、幅広い利用者が増えている。



【課外英語学習講座 TEA's English】

## 5. 教員のグローバル教育力の向上および他大学への貢献

### (1) FD、国際教育関連学会等を活用した教員の資質向上

全学教育・学部・大学院における取組を学内に広く周知するため、平成27年度全学教育FDにおいて「東北大学の英語教育」として教員研修（参加者数108名）を行った。また、各授業科目を英語で行う際に留意すべき事項などを網羅した教員向けセミナーを大学教育支援センターで定期的に開催し、平成28年度は「Classroom management techniques for classes conducted in English」（参加者数24名）を開催した。

### (2) 他大学へのグッドプラクティス普及

本学は、グローバル人材育成事業東日本第1ブロックの主幹校として、ブロックメンバー校と協力のうえ、ブロック会議を主催するほかシンポジウムの開催を通じてグッドプラクティスの普及やブロックメンバー校の教職員間のネットワーク構築の場の提供に努めた。

〔シンポジウム一覧 (会場：東北大学)〕

平成25年度／日程	平成26年3月5日
テーマ	トビタテ！日本の大学生～海外研鑽の効能～
概要	大学等が実施する学習効果の高い派遣留学プログラムの開発や派遣留学プログラム運営における課題等について事例紹介と共に議論・検討する。又、シンポジウム出席者をグループ分けし、大学の国際化における派遣留学の位置づけや、派遣留学の教育効果等について情報共有及び議論を行う。
平成26年度／日程	平成27年2月16日
テーマ	大学教育としての海外留学～学生の海外経験と教育カリキュラムとの連動を考える
概要	大学等が実施する海外留学を推進するための教育制度の改革や留学プログラムをどのように既存の教育プログラムと連動させるかについて、又、大学等が国際教育を基幹とした、より組織的・包括的な学習コミュニティの形成に向けてどのように取り組むべきかを事例紹介と共に議論・検討する。
平成27年度／日程	平成28年2月16日
テーマ	連携で育てるグローバル人材
概要	グローバル人材の育成を進めるうえで必要となる学外の教育資源の活用や協力者との連携について、特色のある取組事例紹介を交え議論・検討する。
平成28年度／日程	平成29年2月21日
テーマ	GGJにおけるグッドプラクティスの共有
概要	東日本第一部ブロックの各メンバー校がGGJ事業の一環として実施した特定のグッドプラクティスについて発表を行い、情報共有を行う。また、グッドプラクティスに係る意見交換を行い、各メンバー校における取組の改善や課題解決に資すると共に、メンバー校間の継続したコミュニケーションを促進する。

**大学教育としての海外留学**  
学生の海外経験と教育カリキュラムとの連動を考える

平成25年度 産学官連携社会の発展を促すグローバル人材育成支援  
For Global Japan 東日本第一ブロックシンポジウム

日程 2015年 2月16日(月) 13:00～16:00  
会場 東北大学附属図書館10号館  
〒980-8577 仙台青葉区片平2-1-1  
www.tohoku.ac.jp/japanese/jyofuku/campus/01/haanishi/17awg2509/

本シンポジウムは「産学官連携社会の発展を促すグローバル人材育成支援(G20 Global Japan)」に先導される、産学官連携推進型「産学官連携推進型シンポジウム」の第1回として、産学官連携推進型シンポジウムとして開催される。本シンポジウムは、産学官連携推進型シンポジウムとして開催される。本シンポジウムは、産学官連携推進型シンポジウムとして開催される。

13:00 開会式  
13:10 開会  
13:20 東北大学附属図書館(演説会場)  
山口 真知  
13:30 事例紹介  
東北大学 産学官連携推進型シンポジウム推進委員会 副委員長 山口 真知  
東北大学 国際化推進部 部長 菅野 哲也  
13:45 質疑応答  
13:55 閉会式  
東北大学 国際化推進部 学長室 学長 菅野 哲也  
東北大学 国際化推進部 学長室 学長 菅野 哲也  
東北大学 国際化推進部 学長室 学長 菅野 哲也

申込方法 「産学官連携推進型シンポジウム」申し込み(申し込み期間: 2月11日(日)まで)  
申込先 www.tohoku.ac.jp/event/2014/block\_event/

お問い合わせ 東北大学 国際化推進部 学長室 学長 菅野 哲也  
〒980-8577 仙台青葉区片平2-1-1  
TEL: 022-795-4422 / E: g@himes.tohoku.ac.jp

**連携で育てるグローバル人材**

産学官連携推進型シンポジウム  
GGJ 東日本第一ブロックシンポジウム

日程 2016年 2月16日(火) 13:00～16:00  
会場 東北大学片平キャンパス 片平北門会館3階スペース  
〒980-8577 仙台青葉区片平2-1-1  
www.tohoku.ac.jp/japanese/jyofuku/campus/01/haanishi/160216\_ggj\_block/

事例紹介  
本シンポジウムは「産学官連携推進型シンポジウム」の一環として開催される。本シンポジウムは、産学官連携推進型シンポジウムとして開催される。本シンポジウムは、産学官連携推進型シンポジウムとして開催される。

申込方法 「産学官連携推進型シンポジウム」申し込み(申し込み期間: 2月11日(日)まで)  
申込先 www.tohoku.ac.jp/event/2014/block\_event/

お問い合わせ 東北大学 国際化推進部 学長室 学長 菅野 哲也  
〒980-8577 仙台青葉区片平2-1-1  
TEL: 022-795-4422 / E: g@himes.tohoku.ac.jp

〔シンポジウム案内チラシ〕

## Ⅲ 参考資料

### 1. 各種データ集

#### ① TGLプログラム登録者数

年度	平成24(2012)年度	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度
文学部	-	83	173	256	289
教育学部	-	34	57	69	73
法学部	-	42	89	125	158
経済学部	-	101	179	282	385
理学部	-	109	226	324	367
医学部	-	36	64	121	178
歯学部	-	14	17	37	45
薬学部	-	11	19	34	50
工学部	-	157	386	648	789
農学部	-	55	112	195	228
合計	-	642	1,322	2,091	2,562

#### ② TGLプログラム指定科目数（うち国際共修科目数）

年度	平成24(2012)年度	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度
全学教育科目	-	161	154	221	272
専門教育科目	-	39	70	102	120
合計	-	200	224	323	392
上記のうち国際共修ゼミ数	-	17	20	22	33

#### ③ グローバルリーダー認定者数・TGLプログラム修了者数

年度	平成24(2012)年度	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度
グローバルリーダー認定者	-	2	6	16	14
TGLプログラム修了者	-	0	3	13	19

#### ④ スタディアブロードプログラム/SAP プログラム数・参加者数

年度	平成24(2012)年度	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度
参加者数	121	275	285	297	330
派遣国・地域数	2	8	10	11	11
派遣機関数	2	12	16	15	15
プログラム数	5	17	18	18	19

⑤ファカルティレッドプログラム/FL プログラム数・参加者数

年度	平成24(2012)年度	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度
参加者数	-	-	-	-	30
派遣国・地域数	-	-	-	-	2
派遣機関数	-	-	-	-	2
プログラム数	-	-	-	-	2

⑥海外体験プログラム 参加者数

年度	平成24(2012)年度	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度
参加者数	-	-	-	16	9

⑦ショートプログラム 参加者数

年度	平成24(2012)年度	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度
参加者数	24	16	21	2	6

⑧大学間協定・部局間協定に基づく学生交流（派遣）数

年度	平成24(2012)年度	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度
派遣数	162	164	169	159	156

⑨日本人学生の海外留学者数・全学生に対する比率

年度	平成24(2012)年度	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度
留学者数	417	585	628	734	807
全学生に対する比率	2.3%	3.2%	3.4%	4.0%	4.3%

⑩卒業時の語学基準（TOEFL ITP® 550相当）取得者数

年度	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度
全達成者数	92	96	155	140
卒業者に対する比率	3.8%	4.0%	6.3%	5.7%

⑪卒業時の語学基準（TOEFL ITP® 550相当）達成状況に占めるTGL学生の実績

年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度
卒業者に対する達成者の比率	4.0%	6.3%	5.7%
TGL学生	22.0%	12.6%	15.0%
非TGL学生	3.5%	5.7%	3.9%

⑫ TEA's English受講者数

年度	平成24(2012)年度	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度
受講者数	-	-	-	395	432

## 2. これまで開催した主なセミナー、シンポジウム等

No.	年度	日付	会議/イベント名	会場
1	2013 (H25)	2013/5/7~10	海外留学応援月間 東北大学留学フェア2013-留学WEEK-	東北大学川内キャンパス
2		2013/6/22	TGLプログラム キックオフミーティング (元国際連合事務次長 赤坂清隆氏 基調講演)	東北大学
3		2013/7~2014/1	TGLプログラム グローバルキャリアセミナー(全13回)	東北大学川内キャンパス
4		2013/12~ 2014/2	東北大学職員海外研修	米国・カリフォルニア大学リバーサイド校 他
5		2013/12/6	外務省国際機関人事センターキャリアガイダンス 「国際機関で働くには」	仙台国際センター
6		2013/12/26	平成25年度 留学経験者のためのキャリアフェア (Global Career Fair 2014)	仙台国際センター
7		2014/3/5	平成25年度第2回 東日本第1ブロック会議	東北大学 金属材料研究所
8		2014/3/5	平成25年度第2回 東日本第1ブロックイベント	東北大学 片平さくらホール
9	2014 (H26)	2014/4/19	TGLプログラム キックオフミーティング2014	東北大学
10		2014/5/7~9	海外留学応援月間 東北大学留学フェア2014	東北大学
11		2014/5/15	国際即戦力育成インターンシップ募集説明会	東北大学
12		2014/5/16	国連防災会議語学ボランティア説明会	東北大学
13		2014/5/19	アセアンセミナー「躍進するアセアンと日本」	東北大学
14		2014/7/10	危機管理シュミレーション	東北大学
15		2015/2/16	平成26年度第2回 東日本第1ブロック会議	東北大学
16		2015/2/16	平成26年度第2回 東日本第1ブロックイベント	東北大学
17	2015 (H27)	2015年5月	海外留学応援月間 東北大学留学フェア2015	東北大学
18		2015年5月・10月	大学間協定校への派遣交換留学説明会	東北大学
19		2015年4月・5月・10月	海外研修(スタディアブロードプログラム/SAP)説明会	東北大学
20		2016/2/16	平成27年度第2回 東日本第1ブロック会議	東北大学
21		2016/2/16	平成27年度第2回 東日本第1ブロックイベント	東北大学
22	2016 (H28)	2016年4月7日・5月11日・10月13日	海外研修(スタディアブロードプログラム/SAP)説明会	東北大学 川内北キャンパス
23		2016年5月	東北大学留学フェア2016~海外留学応援月間 ~	東北大学
24		2016年5月26日・10月14日	大学間協定校への派遣交換留学説明会	東北大学 川内北キャンパス
25		2016年4月~2017年1月(計25回)	グローバルキャリアセミナー	東北大学 川内北キャンパス
26		2016年4月12日、4月13日、10月19日、10月20日	海外研修(スタディアブロードプログラム/SAP)報告会	東北大学 川内北キャンパス
27		2016/12/11	Go Global Japan Expo 2016(東日本第一ブロック)	東北大学
28		2017/2/20	平成28年度第2回 東日本第1ブロック会議	東北大学
29		2017/2/21	平成28年度第2回 東日本第1ブロックイベント	東北大学

### 3. 中間評価結果

スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援  
中間評価結果

大学名	東北大学
申請区分	タイプA：全学推進型

◇経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援プログラム委員会における評価（公表用）

(総括評価) <b>A</b>	これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント)	<p>本事業は、グローバル・リーダーを育成するため、これまでの貴学のグローバル化に向けた取組を踏まえて大学の国際化を一層前進させようとする意欲的なものであり、全ての面において、事業目的の達成に向けた全学的な取組が着実かつ多様な形で行われており評価できる。</p> <p>推進体制を構築し、体系化されたカリキュラムに基づいて、東北大学グローバル・リーダー育成プログラム（TGLプログラム）が粛々と進められており、課題に対処するための工夫も柔軟になされており評価できる。</p> <p>目標の達成状況に関しては、実績が数値目標を下回る項目は見られるものの、今後十分に遅れを取り戻すことのできる範囲にあることから、概ね順調に進められていると評価できる。しかしながら、設定した卒業時の外国語力スタンダードを満たした学生数については、目標・実績とも十分とは言えないことから、より積極的な取組が必要である。</p> <p>順調な進捗が見られる面と、今後加速が必要な面とが混在している感があるものの、TGLプログラムでの成果は着実に積み上げられており、本事業と既設のプログラム、スーパーグローバル大学創成支援との総合的な取組を、スピード感を持って展開することを期待する。</p>

## 4. 平成29（2017）年度フォローアップ資料

### 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援

Type A  
Go Global Japan Project

東北大学(学部入学定員:2,396人)

「ワールドクラスへの飛躍」と「日本・東北の復興の先導」を目標に掲げ、教育・研究を推進。

#### 【構想の目的・育成するグローバル人材像】

本学の強みを活かした特色ある教育プログラムを新設し、海外留学の促進を組み合わせることで、大学教育のグローバル化を加速するとともに、グローバルかつ予測困難な社会を牽引し産学官の様々な分野で新しい価値を創造できるような指導的人材を輩出することを旨とする。

#### 【構想の概要】

大学教育の根幹をなす学部教育において、グローバル社会で指導的役割を果たすための基礎力を修得させる「東北大学グローバルリーダー育成プログラム」を策定・実施する。日常的にグローバルな環境で生活・学習・研究が可能な「グローバルキャンパス」を実現する。さらに、「グローバルラーニングセンター」を設立し、グローバル人材育成の一層の教育環境整備を図る。

#### ■ 教育課程の国際通用性の向上

##### ○ 教育課程の国際通用性の向上のための取組

「グローバルラーニングセンター」を設置し、学生の短期派遣や交換留学を促進している。主体的な学びへの転換を目指す「基礎ゼミ」(1セメ)及び「展開ゼミ」(2セメ)を計241クラス開講し、課題解決能力の向上に向けた授業を拡充した。また、学務審議会において、GPA制度、科目ナンバリング制度、及びクォーター制度導入について具体案を検討し、GPA制度及び科目ナンバリング制度は平成28年度4月に導入した。クォーター制度は平成29年4月入学の学生から開始した。

##### ○ 戦略的な国内外への教育情報の発信

大幅にリニューアルしたグローバルラーニングセンターのウェブサイトや、SNS、入試説明会、海外の協定校訪問等を通じて、本学の教育情報を積極的に発信した。

##### ○ 事務体制のグローバル化

事務体制のグローバル化推進のため、本学事務職員・技術職員が英語力の維持・向上に努めるための環境整備として、TOEIC®テスト団体受験を継続して実施し、平成28年度末までに全職員の92.5%が受験した。加えて、語学学校における英語講座やシドニー大学及びメルボルン大学における海外研修を実施した。



〈グローバルリーダー認定証授与式〉

#### ■ グローバル人材として求められる能力の育成



##### ○ 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

高い専門基礎力の前提のもと、「語学・コミュニケーション力」、「国際教養力」、「行動力」を養う授業や講座・セミナー等からなるサブプログラムと「海外研鑽」サブプログラムを有機的に組み合わせた学部学生向けの東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)を継続して実施。国際共修ゼミや課題解決型授業、グローバルキャリアセミナー等多くの授業を開講し、平成28年度には、グローバルリーダー認定の必須科目となる「グローバルゼミ」(全学教育科目)を新たに開講し、グローバル人材育成基盤を強化。TGLプログラムには2,562名(全学学生の23.3%)が登録。所定の条件を満たした学生を「グローバルリーダー」として認定している。

#### ■ 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組

##### ○ 入試における外国語力・留学経験等の適切な評価

一般選抜において、英語の様々な技能を図る工夫をした問題を出す努力を継続している。入学者選抜要項に英語の資格・検定試験を評価する記載をAO入試Ⅱ期・Ⅲ期を実施する全学部の選抜方法に記載。活動報告書を出願書類として提出させている学部においては、留学経験等を活動の成果として評価している。

##### ○ 効果的な語学教育及び教育体制

東北大学イングリッシュアカデミー(TEA)を設置し、授業の合間や放課後及び長期休業を利用して、学生が各々の習熟度や目的に合わせて学べる課外英語学習プログラム(TEA's English)(計432人受講)や、英語の学習方法を相談できる英語カウンセリングを実施。また、留学に必要な英語能力試験の受験機会を継続して提供。

#### ■ 教員のグローバル教育力の向上

##### ○ 教育体制のグローバル化

学内予算を活用した外国人教員等雇用促進経費を措置し、外国人教員を増員するとともに外国で学位を取得、海外での教育・研究に携わった経験を持つ教員の積極的な登用を行った。

##### ○ グローバル教育力向上のための取組

本学の高度教養教育・学生支援機構が主催するFDを活用し研鑽を図り、国際教育関連の国際学会(NAFSA、EAIE等)、や先進的な取り組みを行う大学主催のFD等に教員を積極的に派遣した。

#### ■ 日本人学生の留学を促進するための環境整備

##### ○ 動機付けや留学を促進するための取組

スタディアブロードプログラム(SAP)や教員引率型海外研修(計374人参加)を始めとする短期派遣留学の拡大を図り、より多くの学生に低学年での海外研鑽の機会を与えることにより、半年から一年の交換留学等を行う学生を増やした。本学独自の奨学金制度であるグローバル海外留学奨励賞、スタディアブロード奨学金での支援を継続した。また、AO入試Ⅱ期・科学オリンピック入試・国際バカロレアにより一足早く本学への入学が決まった者を対象に「入学前海外研修～High School Bridging Program～」を平成25年度から実施している。

##### ○ 留学中から帰国後にわたるサポート体制

グローバルラーニングセンター教員、留学生課職員を中心とした教職員が留学中の学生の様々な相談に対応。また、交換留学から帰国した学生に対し、留学後の就職活動の計画と実践講座を実施した。

**卒業・修了時に学生が修得すべき具体的能力**

本学の学部段階でのグローバル人材育成プログラムにおいては、高い「専門基礎力」の前提のもと、自己と他者の文化・歴史などを深く理解する「国際教養力」を涵養し、英語をはじめとする実践的「外国語力」を養う。これらの基礎能力をもとに、「コミュニケーション能力」を伸ばすとともに、諸能力をいかんなく発揮し世界で活躍する「行動力」を身につけさせる。「海外での研鑽」は、学生の動機づけになるとともに、それまでの学習の成果を確認し課題を見つける非常に有意義な体験となる。本プログラムでは、これらの能力を有機的・総合的に育んでいく。

**本構想において実現する達成目標及び実績**

全学	達成実績						達成目標	
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2016	
外国語カスタンダードを満たす学生数			92人	96人	155人	140人	227人	
うち海外留学未経験者数(A)			55人	61人	61人	81人	9人	
海外留学経験者数(B)	58人	62人	109人	174人	265人	299人	376人	
卒業[予定]者数(C)	2,462人	2,474人	2,449人	2,429人	2,465人	2,437人	2,482人	
比率((A+B)/C)			6.7%	9.7%	13.2%	15.6%	15.5%	
文学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL-iBT®テスト 80		7人(7)	8人(6)	17人(7)	15人(12)	26人(0)
	海外留学経験者数	2人	0人	20人	9人	31人	32人	26人
	卒業[予定]者数	218人	191人	236人	205人	227人	202人	218人
教育学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL-iBT®テスト 80		0人(0)	3人(3)	1人(1)	2人(0)	8人(0)
	海外留学経験者数	1人	1人	6人	4人	14人	12人	13人
	卒業[予定]者数	69人	80人	70人	58人	81人	73人	69人
法学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL-iBT®テスト 80		4人(4)	5人(5)	7人(2)	11人(5)	24人(6)
	海外留学経験者数	1人	1人	3人	4人	11人	15人	18人
	卒業[予定]者数	161人	154人	154人	153人	156人	170人	161人
経済学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL-iBT®テスト 80		5人(4)	10人(2)	14人(7)	14人(4)	20人(0)
	海外留学経験者数	7人	7人	17人	37人	39人	64人	40人
	卒業[予定]者数	264人	288人	265人	277人	267人	282人	264人
理学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL-iBT®テスト 80		8人(6)	14人(9)	28人(12)	33人(19)	27人(0)
	海外留学経験者数	1人	5人	5人	28人	37人	40人	48人
	卒業[予定]者数	318人	341人	332人	317人	325人	329人	318人
医学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL-iBT®テスト 80		9人(9)	33人(19)	22人(14)	26人(15)	40人(0)
	海外留学経験者数	35人	41人	38人	51人	57人	46人	60人
	卒業[予定]者数	246人	246人	246人	267人	257人	253人	266人
歯学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL-iBT®テスト 80		0人(0)	0人(0)	1人(0)	2人(1)	5人(0)
	海外留学経験者数	0人	0人	0人	0人	2人	6人	5人
	卒業[予定]者数	55人	55人	49人	53人	59人	44人	55人
薬学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEIC®テスト800		5人(5)	1人(1)	3人(0)	2人(2)	8人(3)
	海外留学経験者数	0人	0人	0人	1人	3人	3人	9人
	卒業[予定]者数	85人	76人	77人	76人	88人	82人	85人
工学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL-iBT®テスト 80		49人(16)	20人(14)	57人(18)	26人(18)	57人(0)
	海外留学経験者数	9人	7人	15人	37人	60人	64人	132人
	卒業[予定]者数	880人	882人	860人	860人	849人	856人	880人
農学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEFL-iBT®テスト 80		5人(4)	2人(2)	5人(0)	9人(5)	12人(0)
	海外留学経験者数	2人	0人	5人	3人	11人	17人	25人
	卒業[予定]者数	166人	161人	160人	163人	156人	146人	166人